

講義コード	11C0126800	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員	芹田 浩司	開講期	第2期
科目名	開発経済学2								
履修前提条件						備考			
授業の目的	<p>開発経済の主要な課題は、発展途上国に多かれ少なかれ共通する貧困や経済格差（不平等）の問題をいかにして解決（是正）していくかにあると考えられる。この授業は、これまで示されてきた開発に対する様々な見方・アプローチ（理論的枠組み）を検討するとともに、ラテンアメリカやアジアの事例を中心に、工業化をはじめとする開発戦略の実証的検討を行うことを通じて、開発や経済発展に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>この後期の「開発経済学2」では、前期の「開発経済学1」における基本的ポイントを前提としつつ、本授業テーマについてのより実態的な側面を中心に扱う予定である。</p>								
到達目標	<p>発展途上国における開発問題や、発展途上国と先進国の関係等を学ぶことによって、過去および現在の世界経済に関する知見を深めることができる。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>テキスト（配布プリント）については毎回復習してくること（分からない用語や概念等についてはそのままにせず、自分でも積極的に調べるとすること）。また国際面や経済面を中心に新聞にも目を通してのこと。なお、授業外学修時間については120時間以上とする。</p>								
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション（前期のまとめ等） — 「新古典派」アプローチの議論の検討 【第2回】 ～【第3回】 経済開発（主に工業化）に関する理論的検討（前期復習を含む） — 「国家中心主義・制度論」アプローチの検討 【第4回】 ～【第5回】 ラテンアメリカ諸国における経済開発の歴史的展開とそれを巡る諸問題 【第10回】 これまでのまとめ（小テスト：予定） 【第6回】 中国における開発戦略の転換と経済成長およびそれを巡る諸問題 【第11回】 ～【第12回】 経済グローバル化時代における発展途上国経済とその課題（累積債務危機や通貨・経済危機問題、経済安定化および構造調整政策、民営化問題等）。 【第7回】 ～【第9回】 東アジア地域における経済発展とその要因分析に関する検討 — 「東アジアの奇跡」について（その歴史的意義や開発経済学に対するインパクト等） 【第13回】 ～【第14回】 発展途上国の経済・社会に対する経済グローバル化の影響（理論的検討を中心に） 【第15回】 全体のまとめ</p>								
成績評価の方法	基本的には定期試験の成績による。								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書	『国際開発政策研究』石川 滋（東洋経済新報社）2006、『開発経済学－貧困削減へのアプローチ』黒崎 卓、山形 辰史（日本評論社）2003								
参考書	『経済成長』デイヴィッド・N・ワイル（ピアソン）2010、『開発経済学概論』ジェラルド M. マイヤー（岩波書店）2006、『トダロとスミスの開発経済学』マイケル P. トダロ、ステファン C. スミス、マイケル P. トダロ、ステファン C. スミス（国際協力出版会）2004、『エコノミスト 南の貧困と闘う』ウィリアム・イースタリー（東洋経済新報社）2003、『開発経済学の展開』高木 保興（有斐閣）2002、『開発経済論』原 洋之介（岩波書店）2002、『開発経済学入門』渡辺 利夫（東洋経済新報社）2001、『開発経済学－諸国民の貧困と富』速水 佑次郎（創文社）2000								
教員からのお知らせ	基本的に教科書は用いず、配布プリントを基に進める予定です。その他の参考書等については授業中に適宜、紹介します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
その他									